

私学協会理事長賞

私の経験

不二聖心女子学院中学校

おおたき
二年 大瀧 さん

人間の身体はほとんどが水でできています。性別や年齢、国などの違いがあっても、身体の五十〜七十%が水でできています。これは誰でも変わらず同じです。また、人間は水と睡眠さえしっかりとっていれば、たとえば食べ物が多かったとしても二〜三週間生きていけるといわれています。しかし、水を一滴もとらなければ、四、五日で命を落としてしまうことになるということがあります。このように、水はとても大切なのですが、私はこれを身をもって経験しました。

二〇二二年九月、静岡市清水区は台風十五号に伴う大雨等で大きな被害を受け、広範囲で断水にもなりました。清水区に住む親戚から母にメッセージが届き、富士市に住む私はそのとき初めて清水区で水が不足していることを知りました。すぐに近所にあるスーパーに行きました。そこには開店前なのにもかかわらずものすごい数の人が行列を作っていました。そこに並んでいるすべての人が、私たちと同じように水を求めにきていたのです。当然、スーパーの水は売り切れてしまいました。一人あたりの個数制限もされていましたが、満足な量は買うことができず、やっと段ボール一箱分の水を、最後の一つとして確保できました。すぐに親戚に届けたところ、涙ながらに感謝してくれました。

しかし、段ボール一箱の水では到底足りません。洗剤はできないので食事は紙皿や割り箸を使用し、洗濯物は私の家で洗って親戚の家に繰り返し届けました。約二週間断水していたため、車で私の家までお風呂に入りにきたこともありました。そのように工夫や協力をして、なんとか断水を乗り切りました。

私自身が実際に水のない生活をしたわけではありませんが、この経験は私に、水の大切さを強く実感させる出来事となりました。命を保つことの他にも、水は本当に大切なものなのです。ひとたび災害などが起こったとき、いちばんに必要なのは水なのだと、私は強く思いました。

私たちは、何も考えず水を自由に使えていることは当たり前ではない、とよく分かっています。しかし、あまりにも日頃当たり前のように家でもどこでも水道やトイレを使えてしまっているために、水を大切に使うことができているのではないかと感じます。私は一人暮らしをしているわけでもなく、自分で働いたお金で水道代を払うこともないので、それまで水をこまめに止めることなどを一切せず、洗顔や歯磨きをするときには水を出しっ放しにしたり、お風呂で髪を洗うときにシャワーを出しっ放しにしたりしてきました。今思えば、ものすご

い量の水を無駄にしまったと反省しかありません。清水区の断水の経験を通して、私は水に対する意識が高まり、無駄づかいせずに大切にしようという気持ちが芽生えました。

水は、私たちの生活になくてはならないものです。今年一月一日に石川県能登地方を襲った災害のときにも、水がどれほど大切なものであるかを思い知らされました。最初にも書いたように、たとえ食糧がなくても飲み水さえあれば、といってもその水がないのです。水がないために命の危険にさらされた人も多くいたはずです。断水しているために自宅に戻れないという人の声もニュースを通してたくさん聞きました。支援によって簡易的なお風呂に入ることができた方々の、「生き返った」「こんなにお風呂が有り難いと思ったことはない」という喜びの声は、私の経験と重なるものがありました。

何かが起こったとき、水は真っ先に必要になるとともに、私たちの生きる希望にもなります。何かが起こってからスパーに走るのではなく、必要なところにすぐ水が回るように、無駄づかいをなくす、水をきれいに保つなど、日頃から水を大切にしていきたいです。